



理工学部男性教員の 育児参画推進策について

本制度は、配偶者が出産する前後2週間以内の男性教員の出校を免除し、積極的に育児参画していただくことを目的としております。たとえ短期間であっても、育児に専念した経験を共有していくことが、今後更なるワーク・ライフ・バランス推進に向けての「意識改革」の大きな第一歩になると期待します。

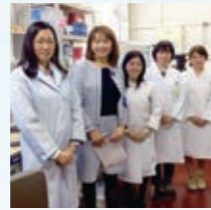
⇒ 出校免除期間の措置

- ・ 自ら補講を行う
- ・ 理工学部在籍する他の教員が代理で講義等を担当する

テレビ宮崎U-dokiで本学の取り組みが紹介されました！

日時：2015年4月25日放送

男女共同参画推進室の活動も4年目に入り、継続事業の安定的な実施とともに、グローバル企業や地域や省庁と連携し活動の場を広げています。「世界に並び立つ大学」を目指した様々な取り組みや、国際的に活躍する女性研究者やその卵たちが紹介されました。



テレビ宮崎 榎木田 朱美
アナウンサーと



女性研究者支援の取り組みについて話す早下学長と
齊藤玉緒教授(男女共同参画推進室室長補佐)



研究指導する齊藤玉緒教授

2015年度 研究支援員制度利用状況

上智学院では、2012年度より本学研究者がワーク・ライフ・バランスを保ちながらキャリア形成を継続し、公正な競争に参加できるよう本制度を運用しています。

本制度を利用する教員が研究支援員のロールモデルやメンターとしての役割も担っており、研究支援員の育成といった波及効果も出ています。

所属	男性	女性	合計
総合人間科学部	1	1	2
法学部		1	1
外国語学部	1	2	3
総合グローバル学部	1		1
国際教養学部		1	1
理工学部	5	1	6
短期大学部		1	1
社会福祉専門学校	1	1	2
合計	9	8	17

男女共同参画推進委員会（2015年7月1日付）

新しい委員が加わりました！本年度も、男女共同参画推進委員会を通して、本学の教育精神である「Men and Women for Others, with Others(他者のために、他者とともに生きる)」を基盤としながら、性別にかかわらず、学生・教職員一人ひとりがその個性や能力を発揮することができる環境の実現を目指します。

役職・選出母体	所属	氏名
委員長 総務担当理事		山岡 三治
委員 人事担当理事		杉本 徹雄
委員 男女共同参画推進室長 理工学部長		築地 徹浩
委員 上智大学	神学部神学科	小山 英之
委員 上智大学	文学部ドイツ文学科	中村 朝子
委員 上智大学 総合人間科学部長	総合人間科学部心理学科	久田 満
委員 上智大学 (室長補佐)	法学部地球環境法学科	三浦 まり
委員 上智大学	経済学部経営学科	細萱 伸子
委員 上智大学	外国語学部ポルトガル語学科	矢澤 達宏
委員 上智大学	国際教養学部国際教養学科	HESS CHRISTIAN NEW
委員 上智大学 (室長補佐)	理工学部物質生命理工学科	齊藤 玉緒
委員 上智大学	地球環境学研究科地球環境学専攻	あん まくどなど
委員 上智大学	総合グローバル学部総合グローバル学科	田中 雅子
委員 上智大学短期大学部	英語科	近藤 佐智子 NEW
委員 社会福祉専門学校	介護福祉士科	三浦 虎彦
委員 聖母看護学校		池本 厚子
委員 総務局長		三輪 義彦
委員 人事局長		須田 誠一

お知らせ 図書貸出サービス コモンスペース(10-315室)では、国立女性教育会館(NWEC)の図書貸出サービスにより図書の閲覧・貸出を行なっております。キャリアやダイバーシティに関する様々なテーマにあった図書を定期的に入れ替えております。是非ご利用ください。

日仏討論会

「女性とリーダーシップ：全てを選びましょう！」を開催しました。

日時：2015年5月29日

フランスの歴代大統領などエリートを輩出することで知られる国立行政学院(ENA)校長のナタリー・ロワソ氏をお招きして、日仏討論会「女性とリーダーシップ：全てを選びましょう！」が開催され、約100名が来場しました。この討論会は、フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本と共催で実施。日仏における労働市場の男女間の不平等や、自己規制のメカニズムについて多様な視点から意見交換がなされました。



フランスの現状について話すロワソ氏

登壇したのは、フランス外務省勤務を経て、2012年にフランス屈指のエリート養成機関であるENA校長に就任し、家庭では4児の母でもあるナタリー・ロワソ氏、外務省総合外交政策局女性参画推進室長の松川るい氏、本学法学部教授でジェンダーと政治を専門とする三浦まり教授(男女共同参画推進室室長補佐)、総合人間科学部教授で家族社会学が専門の田淵六郎教授の4名。また、本学イスパニア語学科卒で、読売新聞メディア局編集部次長の田口栄一氏がモデレーターを務めました。

日本は、世界経済フォーラム(WEF)が発表した「世界男女格差ランキング」において142か国中104位(2014年)。長時間労働と男女の役割分担意識が根強く残っていると指摘がなされました。一方、2013年の45位から16位に躍進したフランスは、パリテ法の導入や、「男女同数内閣」を実現させるなど、様々なポジティブアクションをすでに起こしています。このような具体的事例を紹介いただきながら、日本でも女性の活躍を促すために実現可能な方策はどのようなものがあるか、また、新たに浮かび上がってくる課題はどのようなものがあるかを、登壇者のみでなく、会場からも多くの質問やコメントが出され、熱心に議論が交わされました。グローバル化が更に加速する今日にあっては、男女ともに輝ける社会の実現が必要不可欠であり、それを体現できる人材を社会に送り出していくことが大学に求められる重要な役割だと改めて感じました。



登壇者：
左から)田淵六郎教授、ナタリー・ロワソ氏
田口栄一氏、三浦まり教授、松川るい氏

「性別比例原則」導入を

男女共同参画推進室室長補佐

上智大学法学部地球環境法学科教授 三浦まり



当日は100人近い学生たちが参加して、関心の高さを実感しました。議論の中心は、長時間労働、性別役割分担、女性のリーダーシップで、それぞれに関して、改善の必要性が具体的に語られました。「女子の活躍」は女性の問題ではなく、むしろ男性の働き方や家庭内での行動の問題であり、男性がどうやって労働時間を削減し、家事・育児に主体的に関わるのか、ということが問われていると思います。これらを実現するためには女性議員や女性上司が増え、それぞれの現場で後押しをすることが不可欠です。フランスではパリテ(男女同数)法を導入し女性議員を増やしてきましたが、日本でも日本版パリテである性別比例原則を導入する時機にきていると思います。

2015年度「女性研究者グローバル育成奨励賞」

本奨励賞は、2011年度に女性研究者支援モデル育成事業終了後に創設され、理工学研究科の女子学生を対象に国際的に活躍できる研究者の支援を目的としています。

受賞者10名

松本 郁加 (生物科学領域 博士前期課程1年)
短期留学先 ケンブリッジMRC分子生物学研究所およびDundee大学
International Dictyostelium Conference 2015 (イギリス・ロンドン)

栗田 麻菜美 (化学領域 博士前期課程1年)
短期留学先 アメリカ・ニューヨーク
マウントサイナイ医科大学 聖ルーカススルズベルト病院附属研究所

鈴木 栞 (応用化学領域 博士前期課程2年)
① 6th International Congress on Ionic Liquids (COIL6)
韓国・済州
② The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies アメリカ・ハワイ

鈴木 恵子 (電気・電子工学領域 博士前期課程2年)
24th International Conference on Magnet Technology
韓国・ソウル

佐藤 伽奈子 (情報学領域 博士前期課程2年)
Organization for Human Brain Mapping 2015 アメリカ・ハワイ

古川 春香 (応用化学領域 博士前期課程1年)
The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies アメリカ・ハワイ



宮川 倫 (電気・電子工学領域 博士前期課程1年)
The 7th Asia-Pacific Workshop on Widegap Semiconductors
韓国・ソウル

深井 恵 (化学領域 博士後期課程4年)
The World Multidisciplinary Earth Science Symposium
チェコ共和国・プラハ

松井 翠 (物理学領域 博士前期課程2年)
① XIX International Symposium on Electron Molecule Collisions and Swarms (サテライト会議) ポルトガル・リスボン
② XXIX International conference on photonic, Electronic, and Atomic Collisions (本会議) スペイン・トレド

笠井 祐那 (化学領域 博士前期課程1年)
The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies アメリカ・ハワイ

グローバル育成奨励賞受賞者報告

理工学研究科理工学専攻
電気・電子工学領域
博士前期課程1年
宮川 倫

私は、岸野研究室で窒化物半導体の研究を行っております。この度、韓国のソウルで開催された国際学会に参加いたしました。初めての国際学会で

とても緊張しましたが、研究成果を聴衆に伝えることができました。さらに、アジアやヨーロッパ圏の研究機関からの発表を聴くことができ、特に我々と同じような研究を行っている研究機関からは非常に刺激を受けました。女性研究者は数としては少なかつたように思いましたが、みなさん男性に負けないほど堂々として発表を行っていました。今

回の学会参加は、私にとってとても貴重な経験になり、今後、世界に自分の研究成果を発信していけるように日々の努力を怠らず、研究を進めていく必要性を改めて感じました。

研究発表の後は、一緒に参加した研究室の仲間と韓国料理を堪能しました！



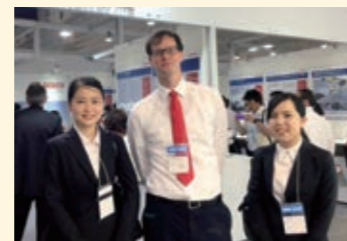
授賞式にて
左から宮川倫さん、早下隆土上智大学長、
築地徹造理工学部長(男女共同参画推進室長)

「人とくるまのテクノロジー展 2015」 ボッシュ株式会社 理系女性のための展示会ミニツアーに参加しました。

日時:2015年5月20日

パシフィック横浜で開催された「人とくるまのテクノロジー展」にて、ボッシュ株式会社による理系女性を対象とした「展示会ミニツアー」に本学の学生2名が参加しました。

ミニツアーでは、まず始めに、ボッシュのブースにて、様々な部品等を見せてもらいながら技術的な説明を受け、その後ドイツ人のマーケティングさんがツアーコンダクターとなり、会場中を回りながら、現在の自動車業界のトレンドなどを説明してくださいました。



左) 丁 睿哲 理工学部機能創造理工学専攻4年
右) 鈴木 恵子 理工学研究科理工学専攻
電気電子工学領域 博士前期課程2年



普段、車はあまり運転しないという2人でしたが、それぞれの研究分野が活かせるフィールドもたくさんあることを知ることができ、自動車への興味も湧いてきたようでした。いろいろな可能性について知識と視野を広げて、今後のキャリアの選択に活かしてほしいと思います。

研究集会「第8回数論女性の集まり」

日時:2015年5月30日

昨年に引き続き、本学の理工学部情報理工学専攻の中筋麻准教授らが世話人となって、「第8回数論女性の集まり」が開催されました。本研究集会は、数少ない数論関係の女性研究者・院生が全国から集まり、互いの研究内容を知る機会を持つことを目的として2008年より毎年開催されています。今年は国際色豊かで、スリランカ、インド、マレーシアからの参加者もあり、英語が飛び交っていたのが印象的でした。中筋准教授は、「世界の女性数学者たちにも注目されはじめており参加の問い合わせも多くなっています。世界各国で活躍する女性数学者たちと情報交換ができる会へと発展していけるよう今後も活動に力を入れていきたい」と話しました。

きらめくソフィアン

小内悠香 (文学部英文学専攻3年)、久保美結 (理工学部情報理工学専攻3年)

4月19日、関東学生英語会連盟主催の「春の2人制ディベートトーナメント」の本戦が行われ、上智大学英語研究会(E.S.S.)に所属する久保さんと小内さんの上智チームが優勝しました。



優勝カップと表彰状を手にする
小内悠香さん(左)久保美結さん(右)

今年度前期の論題は「日本は日米安全保障条約を破棄すべきである」。肯定側と否定側に分かれて議論を戦わせ、英語力、論理的思考力、プレゼン能力を駆使することで、より多くの審判を納得させたチームが勝利となります。2人は入念な練習を重ね、聞き手にわかりやすいよう議論を展開し、見事優勝が決定しました。彼女たちのように、英語でも議論を展開できる力を身につけた学生が数多く育成されることが期待されます。

👑 優勝の喜びについて 👑

小内さん 「目標にしていたものの、まさか優勝できるとは思っていませんでした。本年度後期の大会に向け、また優勝を目指して頑張りたいと思います。」

久保さん 「秋学期は留学するため、ディベート活動は引退してしまいましたが、チームの一員として留学先からも同輩、後輩たちをサポートしていきたいです。」



高岡詠子教授 (理工学部情報理工学専攻)

2015年1月から9月の期間、第5回(2014~15年度) 教職協働・職員協働イノベーション研究として「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会で上智大学ができること:医療・看護・福祉・介護分野における多言語対応情報提供システム構築を目指した人的・組織的ネットワークの構築とシステムの概念設計」を行っています。私たちの取組の目標は「グローバル化社会において多様性の考え方を広める」ことです。他国の医療・福祉制度、法律・文化を学んだり、ボランティア精神の涵養、さらには 医療・看護・福祉・介護の分野でのコミュニケーション手段の提供等パラリンピックボランティアにも利用できるような「上智大学多言語対応医療・看護・福祉・介護情報提供システムSoCHAS (Sophia Cross-lingual Health Assistant System)」構築を目指しています。
SoCHASのページ: <http://pweb.cc.sophia.ac.jp/etl/sochasEng.html>



研究に取り組む高岡教授と学生たち

矢入郁子准教授 (理工学部情報理工学専攻)

8月4日(火)~7日(金)の3日間、上智大学市谷キャンパスにて、ハッカソン「SOPHIA SUMMER HACKATHON 2015 =未来の街をハックせよ=」を実施します。これは、参加者がグループを組み、プログラムやコンテンツ(Webやビデオ)を短期集中で開発するイベントです。

本学の学部生、大学院生は学部・専攻を問わず、誰でも参加することができますので、奮ってご応募ください。多くの方の参加をお待ちしています。

この企画は千代田区からの研究助成金(千代田学)「長期的に継続維持可能な障がい者・高齢者支援ネットワークに関する実践的研究」(申請代表者:矢入准教授)による助成を受けています。ハッカソンの成果は千代田区に還元される予定です。

日程:2015年8月4日(火)~8月7日(金)

場所:上智大学市谷キャンパス

対象:本学の学部・大学院生(理工学部・専攻以外でも参加可能です)

申込: <https://sites.google.com/a/yairilab.net/hackathon2015/>



学生によるアイデア発表の様子

※「ハッカソン」とは、「ハック」と「マラソン」を組み合わせた造語。ハッキングというと不正アクセスという意味が定着していますが、元来は高度な技術でシステムを操ること。プログラマーたちが技術とアイデアを競い合う開発イベントです。